ほぼ週刊コラム　Partnership論　その２２３

**シリーズ：『米国Partnership税制勉強会』**

**第三十二回勉強会（通年内容は**[**年表rev.9**](http://llc.a.la9.jp/Papers/evolution%20history/evolution%20history%20of%20US%20partnership%20taxation%20rev9.ppt)**参照方）の準備**

**the peopleとは何者達なのか？**

20170209 rev.2 齋藤旬

 [**Inventing the People**](https://www.amazon.com/Inventing-People-Popular-Sovereignty-England/dp/0393306232/ref%3Dsr_1_1?ie=UTF8&qid=1477553338&sr=8-1&keywords=Inventing+the+People)**の半訳作業ファイルwork13を**[**和英混訳**](http://llc.a.la9.jp/WaEi%20KonYaku.htm)**のコーナーにアップした。**

2．The Enigma of Representation 28-30

これらの頁を半訳した。

**シンポジウム「Pope Francis and Economics」が**米民主党系シンクタンクIndependent Instituteによって開催され[そのProceedings](http://www.independent.org/publications/tir/article.asp?a=1181)が先月発行された。

The Economics of Pope Francis: An Introduction

Robert M. Whaples

Pope Francis, His Predecessors, and the Market

Andrew M. Yuengert

Understanding Pope Francis: Argentina, Economic Failure, and the *Teología del Pueblo*

Samuel Gregg

Pope Francis on the Environmental Crisis

A. M. C. Waterman

Property Rights and Conservation: The Missing The missing Theme of *Laudato si’*

Philip Booth

Pope Francis, Capitalism, and Private Charitable Giving

Lawrence J. McQuillan

and Hayeon Carol Park

ご覧のように6本の論文が掲載されている。早速、電子版を購入した。幾つかは半訳してアップしていこうと思うが、三本目の「the peopleの神学」に触れた論文の著者Samuel GreggがBaylor大学宗教研究所で行ったポッドキャストを見つけた。以下に、その再生ボタンと半訳した要約を載せておく。

[Samuel Gregg on Pope Francis, Argentina, and Economics](http://www.researchonreligion.org/historical-topics/samuel-gregg-on-pope-francis-argentina-and-economics)　　2017.01.17

　　   :　Pod Cast

『要約』：フランシスコ教皇が選出されて4年経った。南米出身のこの教皇はこの間二つの社会回勅：*Evangelli Gaudium* (2013、Joy of Gospel)と*Laudato Si’* (2015、Praise be to you)を発行し、様々な経済問題について言及した。経済について教皇が何故この様に考えるに至ったのかその背景を知るために、私達（[Baylor大学](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%99%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%83%BC%E5%A4%A7%E5%AD%A6)宗教研究所、[ISR](http://www.baylorisr.org/)）は、市場とモラルについて多数著作のある[Dr. Samuel Gregg](http://acton.org/about/staff/samuel-gregg) [Acton Institute](https://en.wikipedia.org/wiki/Acton_Institute) 研究ディレクターを講師に招いた。Dr. Greggは、そもそも回勅とは何かから説明し、その中の特に社会回勅の特徴と、過去約百年強の間で幾人もの教皇達が重要な社会回勅を著してきたことを説明した。一般に回勅は司教向けに発行されるが、カトリック平信徒達にも広く読まれ、様々な社会経済問題がカトリック社会教説の立場からどの様に読み解かれるのか示唆を与えている。産業資本主義を論じた最初の社会回勅*Rerum novarum*（1891、on the new things）に始まり、*Quadragesimo anno* (1931、四十周年)、 *Lumen gentium* (1964、Light of the Nations)、 *Gaudium et spes* (1965, the joys and hopes)、*Centesimus annus* (1991、百周年)、そして先述のフランシスコ教皇の二つの著作で、カトリック社会思想の考え方がどう変遷したのかどう変遷しなかったのかを説明した。Samuelの指摘によれば、多くの評論家達は*Evagelli gaudium*の経済問題に言及した箇所に焦点を当てるが、本来これは社会の周辺に追いやられている人々にキリストの福音を以て手を差し伸べようとするものだという。次に私達はアルゼンチンの経済史について考察し、その社会と経済の推移がどの様にJorge Bergoglio（教皇の本名）のmindset形成に影響したのかを知る縁（よすが）とする。アルゼンチン政権を1946年から約30年間に渡って独占した[Juan Perón](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%83%9A%E3%83%AD%E3%83%B3)とその主義主張（Peronismo）は、アルゼンチン経済の軌道を大きく歪め、1900年には富裕国世界十傑に入っていたこの国は20世紀に入ると他の途上国に大きく遅れをとっていった。Perónは、所謂“corporatist” set of policiesを広めたが、SamuelによればこのideologyはCatholic thoughtに影響を受けたものだという。更に、1990年代に政権についたCarlos Menemの下にeconomic liberalizationが進められ、21世紀に移る頃アルゼンチンの人々は“great depression”に苦しむことになる。この様な歴史背景からBergoglioの思想形成は、“high theologians”（近代化を拒み伝統を重んじる神学者達）に対し疑いを持つ方向に進み、一介の神学者ではないPope Francisを生み出すことになった、とDr. Greggは指摘する。確かにBergoglioは自身のcareerのほとんどを司牧活動に費やした。しかし、事が経済に及ぶと彼の見解は、Peronismoの数々の負の教訓を活かしたものになる。Bergoglioの思想は、*teología del pueblo* (スペイン語。英語では “theology of the people”、the peopleの神学)にまとまっていく。ちなみに決してこれをliberation theology（解放の神学）と混同してはならないという。次に私達は、経済生活のこの捉え方に対して幾つかの批判が為されていることを考察する。例えば、“the people”が誰なのか判然としない、どの様にすれば“the people”が望んでいることを見つけ出せるのか、など。最後にSamuelは、神学と経済の過去数十年に及ぶ研究から何を学んだかを回想し話を終える。Recorded: December 16, 2016.

　**今私は、エドマンド・モーガンの『the peopleを発明する』を半訳作業中だ**。これがエバンジェリカルズの中の進歩派ルター派の人々のthe peopleの捉え方であるのは間違いないが、カトリックの中の進歩派であるイエズス会がとなえる“theology of the people”のthe peopleと同じかどうかは、確かに未だ定かではない。それはDr. Greggが強調するとおりだ。

　**エバンジェリカルズの中のカルバン派に属するトランプ大統領も**[就任演説](http://edition.cnn.com/2017/01/20/politics/trump-inaugural-address/)で4回もthe peopleを使っている。

　For too long, a small group in our nation's Capital has reaped the rewards of government while the people have borne the cost. Washington flourished -- but the people did not share in its wealth. Politicians prospered -- but the jobs left, and the factories closed.　----

　What truly matters is not which party controls our government, but whether our government is controlled by the people. January 20th 2017, will be remembered as the day the people became the rulers of this nation again. The forgotten men and women of our country will be forgotten no longer.

　**つまり、双方が「我らこそはthe people」と主張し合っている**。どちらが本当のthe peopleなのか。見分けるポイントはmoral responsibilityあるいはa greater sense of responsibility for the common goodを持っているのはどちらなのか、だと思う。（[the publicとpublicの相違点一覧](http://llc.a.la9.jp/Papers/Duo%20Sunt/two%20powers%20principles%20revX.pptx)を参照方。なお、values（価値観）の項目をinter-subjective valuesとobjective valuesの対比に直してrevision 9とした。）

　フランシスコ教皇ではないが、ここはwait and see（成り行きを見守ろう）の段階だ。

今週は以上。来週も請うご期待。